

BEC ワールド(BEC)

BEC スタジオ事業でコンテンツ内製強化。コスト削減効果と政府の「ソフトパワー」支援策の追い風で成長牽引
タイ | 地方テレビ・ラジオ放送 | 業績フォロー

フィリップ証券株式会社

BLOOMBERG : BEC.TB | REUTERS: BECn.BK

- 2023/12期4Q（10-12月）は、売上高が前年同期比9.3%増、純利益が同37.2%減。広告収入が持ち直し、著作権・その他サービス収入が堅調。
- 著作権・その他サービス収入は同52.8%増。グローバル・コンテンツ・ライセンス事業とデジタル・プラットフォーム事業が堅調に推移した。
- BECスタジオ事業に伴うコンテンツ内製強化はコスト削減にとどまらずタイ政府の「ソフトパワー」支援の国策の追い風で成長後押ししよう。

What is the news?

2/23発表の2023/12期4Q（10-12月）は、売上高が前年同期比9.3%増の13.38億THB、純利益が同37.2%減の93.5百万THB。粗利益率が同2.2ポイント低下の30.1%、売上高販売管理費率も同1.5ポイント上昇の19.3%と共に悪化したものの、収入面で主力の広告収入が持ち直したほか、同社が成長戦略として注力の著作権・その他サービス収入が堅調に拡大した。前四半期比では、売上高が20.2%増収、純利益が2.5倍と回復を示した。

4Qの部門別売上高は以下の通り。①主力の広告収入が前年同期比1.9%増の10.65億THB。チャンネル「33」（アナログ放送のチャンネル3とデジタル放送の3局）の放送時間からの広告収入が引き続き主要な収益源となった。②著作権・その他サービス収入が同52.8%増の2.73億THB。その内、グローバル・コンテンツ・ライセンス事業収入は東南アジアや北東アジアのほかラテンアメリカやインドなどドラマ・ライセンス供与先を拡大。デジタル・プラットフォーム事業収入は人気ドラマによるサブスクリプション動画配信が拡大した。

How do we view this?

同社は成長戦略として、①グローバル・コンテンツ・ライセンス事業、②デジタル・プラットフォーム事業および「CH3」アプリケーション、③BECスタジオ事業のローンチ、④アーティスト・マネジメント、⑤音楽事業、⑥映画事業の6つを掲げる。既に「サイマル放送」（1つの放送局が同じ時間帯に同じ番組を、異なるチャンネル、放送方式、放送媒体で放送すること）の拡大を中心に「シングルコンテンツ・マルチ・プラットフォーム」化戦略の推進で海外展開が進捗中のなか、BECスタジオ事業によるコンテンツ内製化でコスト削減も図れると見込まれる。

タイのセター政権は経済高付加価値化、国の競争力強化を目指す一環で国が持つ文化や価値観で他国を魅了することにより理解、共感を得る力である「ソフトパワー」支援策を実施しており、ゲームや映画などの産業育成に強化する方針である。タイ政府は昨秋、セター首相を委員長とする国家ソフトパワー戦略委員会を創設し「タイコンテンツ振興院」を設立。Food、Films、Fashion、Fighting（ムエタイ）、Festivalの「5F」をコンテンツの柱とし、韓流コンテンツから脱却して世界に発信できるオリジナルコンテンツ育成の方針。同社成長戦略への追い風となる。

業績推移

※参考レート 1THB=4.14円

事業年度	2021/12	2022/12	2023/12	2024/12F	2025/12F
売上高(百万THB)	5,680	5,114	4,652	4,730	4,814
当期利益(百万THB)	761	607	210	399	473
EPS(THB)	0.38	0.30	0.11	0.18	0.20
PER(倍)	13.16	16.67	45.45	27.78	25.00
BPS(THB)	3.10	3.12	3.07	3.15	3.26
PBR(倍)	1.61	1.60	1.63	1.59	1.53
配当(THB)	0.00	0.00	0.00	0.09	0.11
配当利回り(%)	0.00	0.00	0.00	1.88	2.16

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想(THB) 0.09 (予想はBloomberg)
 終値(THB) 5.00 2024/4/1

会社概要

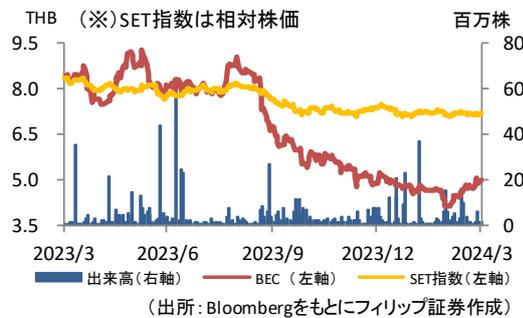
1967年設立のタイのメディアグループ。アナログ1局とデジタル3局の合計4つのテレビ放送チャンネルを有する「チャンネル3」を経営の柱として運営する。

現在は、地上波テレビとオンラインプラットフォームの両方で、様々なプラットフォームでコンテンツ提供ビジネスを運営する。コンテンツ提供ビジネスには、グローバルコンテンツライセンスビジネス、エンターテインメント、ドキュメンタリープログラムの調達・提供などが含まれる。

同社は近年、1つの放送局が同じ時間帯に同じ番組を異なる複数のチャンネル、放送方式、放送媒体を通じて放送する「サイマル放送」の拡大・普及に注力。同社の「チャンネル3」の人気ドラマの中国への配信、および中国で放映されるサイマル放送のドラマをチャンネル3で閲覧できる。

企業データ(2024/4/1)

ベータ値	1.42
時価総額(百万THB)	10,000
企業価値=EV(百万THB)	9,484
3ヵ月平均売買代金(百万THB)	20.5



主要株主(2024/4)

1.Jurangkool Thaveechat	14.20
2.Maleenont Ratana	10.12
3.Hatairat Jurangkool	8.74

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

笹木 和弘
 +81 3 3666 6980
 kazuhiko.sasaki@phillip.co.jp

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>